

昭和62年度における研究開発計画の概要

昭和62年度においては、研究組織の見直しを行ない、各研究室のミッションを明らかにするとともに、各研究計画の構造的関連性を意識することに配慮した。

もとより放送教育開発センターは、国立大学共同利用機関として、遠隔・多媒体教育の形成にかかわる新なる領域の研究開発を進める役割を担うものであるから、専任教官の研究組織のみならず、客員教官および外国人教官との有機的協力がその中核に置かれる。したがってこの研究開発計画の担当者としては、いずれの計画においても、これら客員教官の役割が重要である。

研究開発の課題は、

1. 遠隔地に居住する学習者に教育へのアクセスを確保し（遠隔性），
2. すべての学習希望者に高等教育を公開し（公開性），
3. 放送，印刷物，ニューメディア等多様な媒体の活用によって新たな学習方法を成立させる（多媒体性）ために、番組制作および研究開発における放送大学および国公立大学等との連携協力を踏まえて設定された。

今年度に取り上げる課題，設置する委員会および関連事業は，以下の通りである。

研究開発部「研究開発室」の研究内容について

	研究開発室名	研究内容	氏 名
第一研究部	第一研究開発室	遠隔教育	阿部, 浜野, 山中
	第二研究開発室	公開教育	館, 岩永, 古川
	第三研究開発室	多媒体教育	藤田, 杉, 伊藤, 福田, 小町, 金山, 太田
第二研究部	第四研究開発室	放送教材	福井, ティール, 赤堀, 安岡, 三島, 内埜, 森永
	第五研究開発室	印刷教材	多田, 島田
	第六研究開発室	学習指導	若松, 田代, 柴山, 佐藤
第三研究部	第七研究開発室	評価・情報	菊川, 大塚, 佐賀, 市川, 川淵

A 研究開発課題

I. 大学教育の公開と大学間協力

(1) 公開講座研究班

研究目標 放送利用の公開講座実施の各大学と協力して、放送利用による大学教育の内容・方法等の研究開発、大学教育の開放の促進、大学における教育方法の改善等に関する研究を行う。

A. 放送利用の公開講座の研究開発

研究課題 大学及び番組製作機関と共同して放送を利用した大学公開講座を開発し、大学の教育の内容・方法の改善、大学教育の地域への開放の促進及び実施大学間での番組の相互利用等に関する調査研究を実施する。

B. 大学群における公開講座の研究開発

研究課題 一定地域内の複数の大学が共同して企画、実施する放送利用の大学公開講座を開発し、大学が相互に授業への活用を図ること等により、大学における教育の改善に資するための調査研究を実施する。

研究組織

専任教官	客員教官	研究協力者
※ 舘 昭 (助教授)	小林 靖雄 (放送大学副学長) 水越 敏行 (大阪大学教授) 天野 郁夫 (東京大学教授) 公開講座実施大学 北海道, 東北, 新潟, 金沢, 信州, 名古屋, 大阪, 広島, 高知医科, 熊本, 琉球	井出 定利 (民間放送教育協会 プロデューサー)

※印は、代表者を示す。

(2) 私大通信研究班

研究目標 私立大学通信教育協会との連携協力のもとに、通信教育における学習継続のチェック・システム、ペースメーカーとしての放送利用、共通教材の副教材の開発及び放送大学の利用等による、通信教育の学習の効率化について調査研究する。

A. 通信教育用放送番組の制作・放送

研究課題 番組内容（学習指導，教材指導，補習講座）及び放送期間，時間帯の最適化について研究する。

B. 共通印刷教材の開発

研究課題 既刊の共通教材を対象とし，学習の理解度を調査するとともに，教材の理解，自己学習評価のための手法を盛りこんだスタディーガイドを開発する。

研究組織

専任教官	客員教官	研究協力者
※館 昭 (助教授)	小谷津孝明 (慶応義塾大学教授)	

(3) 共通教材研究班

研究目標 高等教育機関において共通に利用することのできるビデオ・オーディオ教材を開発・制作し，高等教育機関の教育の改善充実に資するとともに，学習指導方法等の基礎的な調査研究を行う。

A. 教師教育教材の制作

研究課題 教員養成教育に利用することのできるビデオ教材を制作し，教育実習生及び現職教員等の教材として利用し教育効果を高め，その資的向上を確保するとともに教職課程の教育方法等の改善に資するための研究開発を行う。

研究組織

専任教官	客員教官	研究協力者
※藤田 恵璽 (教授) 赤堀 正宜 (助教授)	坂元 昂 (東京工業大学教授) 鈴木 慎一 (早稲田大学教授) 西之園晴夫 (京都教育大学教授) 黒川徳太郎 (尚美音楽短大教授)	長倉 康彦 (東京都立大学教授) 上野 淳 (東京都立大学助教授) 長沢 悟 (日本大学講師)

B. コンピュータ教育用番組の制作

研究課題 学校教育におけるコンピュータ教育に対する関心の高まりに対応して、その現状を把握し、コンピュータ教育のあり方の検討に資するとともに、教員養成に利用することのできるビデオ教材を制作して、教職課程でのコンピュータ教育の理解に役立たせる。

研究組織

専任教官	客員教官	研究協力者
※赤堀 正宜 (助教授)	坂元 昂 (東京工業大学教授) 佐伯 胖 (東京大学助教授)	西宮 滝登 (富山市立草島小学校教諭)

C. 高等専門学校用共通教材の制作

研究課題 印刷教材（含スタディ教材）制作のために、生命科学のビデオ教材15巻を函館高専の“総合視聴覚教育システム”を使用して学生に視聴させ、その反応を分析し、評価する。これらの結果をふまえて印刷教材（含スタディ教材）制作を進める。

研究組織

専任教官	客員教官	研究協力者
※若松 茂 (教授) 佐藤 卓二 (助教授)	渡辺 格 (ヤクルト本社常任顧問) 太田 次郎 (お茶の水女子大学教授) 小島 栄樹 (函館高専教授)	山口 雅弘 (有)DNA研究所主幹) 伊藤 祐子 (北里大学非常勤講師) 山田雄次郎 (有)DNA研究所客員研究員) 三本 勲夫 (東京高専助教授) 高橋 克夫 (木更津高専助教授) 赤羽 徹 (沼津高専助教授) 高橋 惣蔵 (茨城高専教授) 高昌 晨晴 (小山高専助教授) 渡辺 禎二 (群馬高専教授) 山之上寛二 (長野高専教授) 松田 智 (長岡高専助手)

D. メディア・ミックスによる教育実践の評価研究

研究課題 学校の授業において、様々のメディアを最適に組合せて学習指導を行うメディア・ミックスの実践事例を、教科単元の目標、学習内容、メディアの特性等を考慮しながら評価し、効果的なメディア・ミックスのあり方を明らかにする。併せて、メディア・ミックスの実践過程を映像に記録し、教師教育用の教材とする。これによって、情報化時代の教育システムの開発・充実に資する。

研究組織

専任教官	客員教官	研究協力者
※佐賀 啓男 (助教授) 市川 昌 (助教授)	水越 敏行 (大阪大学教授) 浅田 匡 (非常勤講師・ 大阪大学助手)	平林 静夫 (財)松下視聴覚教育 研究財団業務課長) 古田 晋行 (財)日本放送教育協 会理事・編集部長) 吉田 貞介 (金沢大学教授) 久故 博睦 (京都市立生祥小学校長) 村上 繁樹 (京都市立生祥小学校教諭)

(4) 放送大学に関する調査研究班

研究目標 放送大学学生に関する各種調査及び遠隔教育への需要・効果等の調査を実施し、放送大学と協力して今後の放送大学の管理・運営の指針となるべき基本的資料を作成する。

A. 学生調査

研究課題 2回の調査の積み重ねを経て、放送大学学生の学習動態に関するいくつかの比較的具体的なモデルが構成されつつあり、その検討と入学後3年目の学生の学習実態についての記述を行い、また学習継続・非継続に関する心理社会的要因の分析を行うことを目的とする。将来的には、放送大学学生の動態モデルを確立し、種々のシュミレーション研究を行うための基礎資料とする。

研究組織

専任教官	客員教官	研究協力者
※岩永 雅也 (助手) 柴山 盛生 (助教授) 大塚 雄作 (助教授) 山中 速人 (助手)	甲田 和衛 (放送大学副学長) 加藤 秀俊(放送大学教授) 塩崎千枝子(非常勤講師・ 松山東雲短大助教授) 池木 清 (日本橋女学館短大講師)	坂井 素思(放送大学助教授) 梅津 順一(放送大学助教授) 山田 文康 (大学入試センター助手)

B. 学習センターに関する調査研究

研究課題 放送大学の全国化に向け、学習センターの役割と機能ならびに学習指導の進め方について調査研究を進める。

1. 学習センター諸機能の経時的推移の解析（含諏訪地区）
2. 学習センターでの面接授業の教育工学的役割の調査
3. 電話ファクスによる専門別学習相談（質疑応答）の実験的試行

研究組織

専任教官	客員教官	研究協力者
※若松 茂 (教授) 田代 和久 (助教授)	小林 靖雄 (放送大学副学長) 平沢 彌一郎 (放送大学教授) 宮代 彰一 (放送大学教授) 矢部 章彦 (放送大学教授)	東 千秋 (放送大学助教授) 横山 雅夫 (放送大学助教授) 小川 鑲一 (放送大学助教授) 遠山 紘司 (放送大学助教授) 臼井 永男 (放送大学講師)

C. 遠隔手法による面接授業代替モデル実験研究

研究課題 面接授業の機能の中心を、双方向学習と捉え、ニューメディアの導入による双方向学習の実際を探り、対面の面接授業の代替システムの開発を目的とするものであり、放送大学の全国化に向けて面接授業のあり方に展望を開く。

研究組織

専任教官	客員教官	研究協力者
※若松 茂 (教授) 田代 和久 (助教授) N. J. ティール (助教授) 山中 速人 (助手)	小林 靖雄 (放送大学副学長)	平賀 正子 (放送大学助教授) 横山 雅夫 (放送大学助教授)

D. 放送大学学生の学習継続に関する心理学的研究

研究課題 放送大学学生動態調査を利用し、放送大学学生の心理的な側面に関する問題点を探索し、併せて、学習理論・動機づけ理論に基づいて、生涯学習・遠隔学習における学習のあり方に関する理論的な検討を行う。以後、そこで見出された知見を調査等で深めていくと共に、その他の開発プロジェクトなどとともに関連させて、実験的・応用的研究へと発展させていく。

研究組織

専任教官	客員教官	研究協力者
※大塚 雄作 (助教授)	肥田野 直 (放送大学教授)	樋口 一辰 (学習院大学助教授) 竹綱誠一郎 (新潟大学講師) 鎌原 雅彦 (東京大学助手)

II. 遠隔教育の調査研究

(1) 遠隔教育基礎調査研究班

研究目標 国内外の遠隔教育機関及び各種の生涯教育機関に関する各種資料を収修し、現時点での遠隔教育の実情を把握できる基礎的資料を作成し、遠隔教育の今後の可能性と問題点を明らかにする。

A. 遠隔教育機関の資料収集及びリストの作成

研究課題 国内外の遠隔教育機関に関する情報の収集に努め、その実情を調査し、遠隔教育の現時点での可能性と問題点を明らかにする。

研究組織

専任教官	客員教官	研究協力者
※ 島田 裕己 (助手)		鳥井由紀子 (国際宗教研究所研究員)

B. 遠隔教育制度, 事情の研究

研究課題 アメリカ, イギリス, ドイツの教養教育カリキュラム及び教材, 評価法スタッフ・ディベロップメント等の調査研究を進める。特にアメリカで展開している多様な遠隔教育について調査して, その成立条件を究明する。

研究組織

専任教官	客員教官	研究協力者
※館 昭 (助教授) 大塚 雄作 (助教授) 岩永 雅也 (助手)	塩崎千枝子 (非常勤講師・ 松山東雲短大助教授)	浅沼 茂 (聖路加看護大学講師) 荒井 克弘 (国立教育研究所室長) 池田 輝政 (大学入試センター助手) 今井 重孝 (東京工芸大学講師) 古屋野素材 (明治大学講師) 別府 昭郎 (明治大学助教授) 安原 義仁 (国立教育研究所研究員)

C. 映像資料データベース開発研究

研究課題 本センターで所有する大学放送教育実験番組，放送大学授業番組，大学公開講座，共通教材等の完成教材及びそれらの制作に利用した素材（写真，パターン等）の映像資料を積極的効率的に活用するため，映像資料データベースを構築する。

研究組織

専任教官	客員教官	研究協力者
※菊川 健 （教授） 藤田 恵壘 （教授） 市川 昌 （助教授） 川淵 明美 （助手）		川淵 里美（東海大学助教授）

(2) ニューメディア研究班

研究目標 本格的なニューメディア社会の到来を前にして、各種のニューメディアが教育の分野にいかに関用できるか、その可能性を探り、高等教育での実際の利用方法を研究開発する。

A. CATVの遠隔教育実験(I)

研究課題 放送大学の全国化を展望し、CATV局の利用の可能性を探るために、教材の地域性についてそのニーズを調査するとともに、地域性を加味した教育ソフトの制作手法について検討を加える。

研究組織

専任教官	客員教官	研究協力者
※島田 裕己 (助手) 山中 速人 (助手)	川畑 正大 (ニューメディア開発協会理事)	後藤 和彦 (常磐大学教授)

A. CATVの遠隔教育実験(II)

研究課題 放送大学の全国化を視野に入れて、CATV等を含めた多様な提供手段の試行研究を行うと同時に個々の地域的条件に応じて、生涯学習、企業教育、一般大学との連携など多様な放送大学番組の効果的な活用の可能性を探る。

研究組織

専任教官	客員教官	研究協力者
※山中 速人 (助手) N.J. ティール (助教授) 島田 裕己 (助手) 川淵 明美 (助手)		富士 繁一 (神戸市開発管理事業団CATV課長) 久米 昭元 (神戸市外国語大学助教授)

B. FM多重放送活用による教育効果の増進の研究

研究課題 昭和64年度に放送大学はFM多重放送の導入を計画をしているが、これにより実質的に放送数が2倍に使えるようになる。CATVの利用により多重放送の効果と利用方法を開発する。

研究組織

専任教官	客員教官	研究協力者
※菊川 健 (教授) 阿部 美哉 (教授)	加藤 秀俊(放送大学教授)	影山 英彦 (放送大学学園放送部長)

C. 音声メールの利用による放送教育の効果向上の研究

研究課題 音声メールシステムを使用して次の手順で研究を行う。

1. 音声登録, 検索など音声メールシステムの構築と機能の確認
2. 学生からの質問の方法, 学習センターでの検索方法, 回答などの技術的な研究
3. モデル授業による検証
4. 音声メール活用システムの確立

研究組織

専任教官	客員教官	研究協力者
※佐藤 卓二 (助教授) 杉 依孝 (教授)		藤田 史郎(NTTデータ通信 事業本部長) 前田 隆正(NTTテレマーケティング 取締役) 板倉 征男(NTT営業統括本 部営業部長) 白根 禮吉 (電気通信科学財団理事長)

(3) 学習指導・評価研究班

研究目標 遠隔教育における学習指導方法の最適化を実践的に研究する。

A. 放送教材等の利用に関する研究

研究課題 放送教材等に関する幅広い層からの評価をまとめることによって、実際の放送大学の教材作りに供することを目的とすると共に、各大学が放送大学の放送教材をどのような形で利用可能であるかを模索する。

研究組織

専任教官	客員教官	研究協力者
※大塚 雄作 (助教授) 山中 速人 (助手) 岩永 雅也 (助手)	小林 靖雄 (放送大学副学長) 甲田 和衛 (放送大学副学長) 肥田野 直 (放送大学教授)	

B. 遠隔教育における成績評価法の調査研究

研究課題 いくつかの単位認定試験の分析を通して、放送大学の単位認定のあり方について検討すると共に、試験項目バンクの試作を行っていく。また、各学期にわたって、試験の難易度の違いによる単位修得に関する不公平さを是正するための試験の等化法の検討を行う。

研究組織

専任教官	客員教官	研究協力者
※柴山 盛生 (助教授) 大塚 雄作 (助教授) 山中 速人 (助手)	加藤 秀俊 (放送大学教授) 肥田野 直 (放送大学教授)	南風原朝和 (新潟大学助教授) 前川 真一 (大学入試センター助教授)

Ⅲ. 多媒体教育の研究開発

(1) メディア活用研究班

研究目標 放送大学の主要教育手段であるテレビ，ラジオ及び印刷教材の教育手段としての特性を明らかにし，それぞれの特性を効果的に教育に活かすための制作手法のモデルを研究開発する。

A. テレビ，ラジオ，印刷教材の教育効果比較研究

研究課題 「学校教育」をテーマとして取り上げ，これを遠隔高等教育における教育系の専門基礎となる科目として位置付けた場合の，最もふさわしい知識内容，知的スキル，構成について放送教材，印刷教材の両面から総合的に研究する。2本程度の試作を行い，モニター調査によってその効果を調査する。

研究組織

専任教官	客員教官	研究協力者
※杉 依孝 (教授) 館 昭 (助教授) 小町 真之 (助教授) 市川 昌 (助教授) 島田 裕己 (助手)	深谷 昌志(放送大学教授) 奈須 紀幸(放送大学教授) 塩崎千枝子(非常勤講師・ 松山東雲短大助教授)	天笠 茂(千葉大学助教授) 明石 要一(千葉大学助教授) 岡崎 友典(放送大学助教授)

B. 放送教育番組のタクソノミーの開発及び視聴学習行動の基礎研究

研究課題 教育番組の構成を明らかにするための番組分析法を開発し、放送メディアに関するタクソノミーの開発を試行する。これによって番組の系統的分類を行い、番組間の比較・検討、評価・改善の基盤を形成する。また、放送メディアの特性と視聴行動との相互関係を解明することによって、視聴行動に適切に対応したメディア開発の指針を探り、視聴学習の形成的評価を行うことにより放送学習の特性を解明する。

研究組織

専任教官	客員教官	研究協力者
※ 藤田 恵璽 (教授) 福田 滋 (助教授) 小町 真之 (助教授) 伊藤 秀子 (助教授)	星野 昭彦 (千葉大学助教授) 野嶋栄一郎 (早稲田大学助教授)	大野木裕明 (福井大学助教授) 本間 明信 (宮城教育大学助手) 村川 雅弘 (鳴門教育大学助手)

C. 印刷教材の研究(I)

研究課題 いくつかの分野(科目)を取り上げ、英米カレッジ・テキスト、OUの印刷教材、アメリカのコミュニティカレッジの印刷教材、日本の大学教科書等と放送大学教材を比較・検討する。そこから抽出された問題点に基づき、印刷教材作成の理論化をはかる。

研究組織

専任教官	客員教官	研究協力者
※多田 方 (教授) 佐賀 啓男 (助教授) 岩永 雅也 (助手) 島田 裕己 (助手)	阿部 齊(放送大学教授) 箕輪 成男 (愛知学院大学教授) 沼野 一男(玉川大学教授) 白石 克己 (玉川大学助教授)	

C. 印刷教材の研究(II)

研究課題 『宗教学を学ぶ』を具体的な検討課題としながら、印刷教材ならびに印刷副教材のモデルを制作し、その評価を行う。さらにこの評価をもとに、印刷教材・印刷副教材の制作ガイドラインを示したマニュアルの作成を検討する。

研究組織

専任教官	客員教官	研究協力者
※島田 裕己 (助手) 多田 方 (教授)		石井 研士(東京大学助手)

D. コンピュータ通信・ファックス等を利用した遠隔教育システムの調査研究

研究課題 放送大学学生を対象としたパソコン通信クラブを学生の自主的な参加を原則として組織し，本センター所有のネットワークを活用し，「英語」に関する補助学習指導を行いパソコン通信の学習指導における効果，機能について調査研究する。

研究組織

専任教官	客員教官	研究協力者
※山中 速人 (助手) N. J. ティール (助教授) 佐賀 啓男 (助教授) 大塚 雄作 (助教授) 川淵 明美 (助手)	塩崎千枝子 (非常勤講師・ 松山東雲短大助教授)	岡部 一明 (科学技術ジャーナリスト)

E. 工学教育のニューメディア導入による新教育法モデル開発の研究

研究課題 学習効果について実証的研究に立脚した理論背景をもった工学教育モデルを開発するために、メディアを活用した教材を試作し、視聴学習実験を実施する。その後、実験的検証を元にした対話型ビデオディスクや教材作成マニュアルを作成する。

研究組織

専任教官	客員教官	研究協力者
※柴山 盛生 (助教授)	坂元 昂 (東京工業大学教授)	矢代 和祐 (函館高専教授)
館 昭 (助教授)	藤沢 俊男 (大阪大学教授)	佐藤 晴美 (富山高専助教授)
N.J. ティール (助教授)	西村 久孝 (富山高専教授)	森 治朔 (富山高専助教授)
	小島 栄樹 (函館高専教授)	

(2) 語学教育研究班

研究目標 マス教育における語学教育のあり方を放送大学語学番組の学習到達度の測定等を通じて研究し、構築する。

A. 日 本 語

研究課題 日本語教育の需要の高まりに対応し、日本語並びに日本語教育に関するマルチ・メディア教材のあり方を探り、教材を作成する。

研究組織

専任教官	客員教官	研究協力者
※島田 裕己 (助手)	相澤 正夫(非常勤講師・ 国語研究所研究員)	

B. 英 語 (I)

研究課題

- ・暗記中心主義の英語から創造的な英語(表現力を強調した英語)への転換を目指す。
- ・初級英語を活用する英語教育の方策を考える。
- ・「大学英語教育の達成度」の理論化及び具体的内容を考察する。

研究組織

専任教官	客員教官	研究協力者
※ N.J.ティール (助教授) 大塚 雄作 (助教授)	比嘉 正範(放送大学教授)	平賀 正子(放送大学助教授)

B. 英 語(Ⅱ)

研究課題 放送大学の番組『英語』を大学における授業に利用した場合の効果測定を行い、あわせて副教材を作成し、教材開発のための資料を得る。

研究組織

専任教官	客員教官	研究協力者
※市川 昌 (助教授) 赤堀 正宜 (助教授) N. J. ティール (助教授)	比嘉 正範 (放送大学教授)	大内 茂男 (上越教育大学教授) 宇佐美昇三 (上越教育大学助教授) 平賀 正子 (放送大学助教授)

C. 仏 語

研究課題 フランス語入門教材の基礎を固め、併せて補助教材としてオーディオカセットの作成及びワークブックのあり方の研究を行う。

研究組織

専任教官	客員教官	研究協力者
※福井 芳男 (教授) ニコム・タダング (外国人研究員) 金 俊漢 (外国人研究員)	高城 薫 (非常勤講師) 田邊 保子 (放送大学面接 授業担当講師)	ジャン・ムサリ (仏大使館言語担当官) 宮原 信 (東京大学助教授) 井戸 桂子 (放送大学助教授)

D. 独 語

研究課題 ドイツ語の授業科目について、授業内容のレベルだけではなく、授業の構成や教授法についての問題点を洗い出し、放送を通じての語学授業のあり方を研究する。

研究組織

専任教官	客員教官	研究協力者
※阿部 美哉 (教授)	辻 理 (放送大学教授)	中山 純 (明治学院大学助教授) 大貫 敦子 (千葉大学助教授)

(3) 特別プロジェクト研究班

研究目標 遠隔教育に利用される教材について幅広く研究し、実際に活用しうる教材の開発を行う。

A. 海外との共同による番組制作

研究課題 『アジアの社会』を具体的な検討課題としながら、コースチームによる制作手法の開発とその効果・問題などの把握を行う。同時に、印刷教材とセットブック、放送講義の効果的な複合化の手法の開発を行う。

研究組織

専任教官	客員教官	研究協力者
※森永 茂喜（助教授） 多田 方（教授） 島田 裕己（助手） 山中 速人（助手） ニコム・タダング （外国人研究員） 金 俊漢 （外国人研究員）	祖父江孝男 （放送大学教授）	藤本 彰三 （東京農業大学講師） 中嶋 廣（フリー編集者） 浜田 哲也（東京大学助手） 鳥井由紀子 （国際宗教研究所研究員）

B. ビデオディスク教材の開発・研究

研究課題 放送大学における面接授業及び通信指導の代替として、在宅のままコンピュータによる担当講師の授業が映像で受けられるプログラム及び映像ソフトを開発する。

研究組織

専任教官	客員教官	研究協力者
※金山 暢郎（助教授） 太田 亨（助教授） 柴山 盛生（助教授） 金 俊漢 （外国人研究員） ニコム・タダング （外国人研究員）		森 政弘（東工大名誉教授） 小川 鑛一（放送大学助教授） 吉松 精一（パイオニア）

C. 放送大学補助教材の開発

研究課題 ・遠隔教育における実験科目の補助教材を開発する。
・教材の範囲として、ビデオ、CAI、レポートを対象とする。

研究組織

専任教官	客員教官	研究協力者
※柴山 盛生（助教授）	宮代 彰一 （放送大学教授）	遠山 紘司（放送大学助教授）

D. 外国向け番組の制作

研究課題 既製の映像教材（「教師教育」2本並びに「宗教理論と宗教史」2本）の英語版について、海外の有識者に視聴を依頼し、「日本の教育」並びに「日本の宗教」を紹介する教材として十分に活用しうるかの評価を行う。

研究組織

専任教官	客員教官	研究協力者
※島田 裕己（助手） N. J. ティール （助教授）		鳥井由紀子 （国際宗教研究所研究員）

E. 日米放送番組共同制作

研究課題 『日米教育比較』を題材に海外との共同制作・放送の可能性を探り、共同研究及び番組制作を実施する。

研究組織

専任教官	客員教官	研究協力者
※浜野 保樹（助教授）		ピーター・グリーンリー （WNETディレクター） ロバート・リースマ （WNET） 水上 毅（NHKエンタープライズ統括マネジャー） 鈴木 健次（NHK生涯教育部 チーフディレクター）